



全国曹洞宗青年会の

活動紹介(六十二)

令和六年能登半島地震

行茶傾聴活動「おぼうさんカフェ」

副会長 山崎 秀典
やまざき しゅうじん

令和六年能登半島地震の発災より、全曹青災害復興支援部（以下、支援部）では各青年会と連携し、発災当初は不足する物品提供、避難所での炊き出しを実施、そのコーディネートをしてまいりました。

九月下旬には、避難所から仮設住宅への移動がほぼ完了し、行茶活動募集の発信をしようとした矢先に豪雨災害が発生しました。行茶活動は控えたほうがよいのではないか、という意見も出ましたが、「大雨も重なった今だからこそ、話を聴きに来て欲しい」

という声を現地より頂戴し、常駐されているシャンティ国際ボランティア会（SVA）と協力し、九月より行茶傾聴活動「おぼうさん カフェ」を行っております。

行茶は被災者の方に、心休まるひと時を提供する活動です。お話をされる方の「本当の声」を聞くためには「自然」であることが大切であり、また近く側も持続的なものでありたいと考えています。

支援部ではそのためには、以下の三点に留意しております。

一点目が事前準備です。私たちを含め、参加された方にとつて「また来たい」「またおぼうさん（皆さん）との時間をお過ごしたい」と感じていただけるような関係性を築き、つなげていけるよう、責任者との打ち合わせや情報共



有といった事前準備に注力しています。

二点目は信頼関係の構築です。

不安や様々な感情に耳を傾ける

ことは、良好な信頼関係の上にこ

そ成り立つものだと思います。そ

のため、布教的な言動には注意す

る必要もありますが、私たちが宗

教者、僧侶であることは変えよう

もありません。また活動の中心で

ある門前町の方がたは、總持寺祖

院のことを「本山」とおっしゃり、

今なお大切に想つてくださつてお

ります。そういった方がたへ、布

教・伝道の誤解とならないことを

前提として、私たちが僧侶である

ことを含む宗教的資源（宗教觀・

死生観的対話、数珠づくりやお地

蔵さまをお届けするなど）、青年

僧侶であるメリットを最大限に活

用しながら、よりよい関係を作り

上げたいと思います。

三点目は、これまでの歩みを活

かし、活動をつなげて

いくことです。支援部

は平成二一年、第一八

期より常設されました

が、前身であるボラン

ティア委員会、更にそ

れ以前より行われてき

た活動のつながりがあつて、今の

活動がなされています。また宗務

府各曹青会をはじめ、多くの方・

団体のお力添えを賜りながら、様

ざまな災害において、活動を続け

ることができます。その蓄積を

から的情報、経験などをもとにし

ながら、活動計画やガイドライン

作成を行つています。

これらを活かしながら、被災さ

れた方が日常と、自分自身をゆつ

くりと取り戻していくだけ

るように、これからも活動してま

いります。



●執筆者プロフィール

山崎秀典

曹洞宗山梨県青年会 所属